

平成24年1月30日
第12回設置協議会

「和泉」の地名の由来について

<参考文献> 杉並風土記(下巻) 森 泰樹(もり やすじ)

和泉1~4丁目について

【江戸時代】

武州多摩郡和田村、堀之内村、和泉村、永福村の4つの村のひとつ。
和泉村、永福村の大部分は旗本五百石の内田氏の領地であり、その一部分は幕府の直轄地。

【明治22年町村制施行】

4カ所統合により和田堀内村になり、和泉村は和田堀内村大字和泉となる。(P36)

大字和泉は12の小字からなっていた。(P41)

他は大字和田、大字堀ノ内、大字永福。

後に和田堀町となる。

【昭和7年改定】

和泉町となる

【和泉村の名のおこり】

村内の貴船神社境内にこんこんと湧き出て、かれたことがない泉があった。良い(和)泉があったことから和泉村の名が生まれたといわれている。(P40)

「貴船神社」熊野神社より北へ100メートル。(和泉3丁目22番)熊野神社の末社。

「池」は広さ約10坪、深さ1mくらい。(P301)

「和」は良いと言う意味。

昭和40年ころまでは清水がこんこんと湧き出て池から前の小川に流れでていた。(P302)

神田川の川底の掘り下げた改修工事と宅地化で水かれ、空堀となっている。

【和泉 1～4 丁目】(P 284)

北は方南通り、南は甲州街道、東は環状 7 号線、西は永福に囲まれ、旧和泉村の大部分と旧和田村字峰、字方南の一部地域です。

中程を神田川が西から東へ蛇行し、水田であった低地は台風のたびごとに冠水の常習地帯であった。河川改修後（昭和 53 年ごろ）被害がなくなった

【泉涌山龍光寺】(P294)

和泉 3 丁目 8 番に現存

【和泉熊野神社】(P297)

旧和泉村の鎮守様。和泉 3 丁目 22 番

【和泉中学校】(P 285)

井の頭通りの北側、すり鉢型の低地にある。

耐震検査の結果、昭和 59 年に改築 3 階建て。1m校地をかさ上げしている。校長室、職員室を 2 階へ。

開校 10 周年記念誌「和泉」 （昭和 44 年 3 月発行）

水に始まって、水に終わる。これが和泉中の十年の歴史であった。

神田川の氾濫でたびたび浸水。

昭和 33 年 8 月 25 日狩野川台風、昭和 41 年 6 月 28 日台風 4 号、被害がひどかった。

「台風 4 号」では、玄関での水深 80cm。孤立する。

1 階の校長室、職員室を 2 階に緊急移転する。

校内には大きな鯉、ふな、金魚など流れ込む。

ガラスのは損、泥、臭気、倒木あり、被害のひどさが伺える。

杉並消防署から消防自動車の出動により泥を流しだしてもらった。